

ケアセンターけやき(通所介護)

症 例 概 要 利用者氏名 80代・女性・要介護2)

利用期間 令和4年8月～現在

既往歴 認知症

経 過 ご本人はご主人と二人暮らしですが、認知症の進行によりお湯張りなどの操作ができず、入浴をしているかどうかの認識も曖昧で、生活全体の状況を把握することも困難な状態でした。定期的に訪問している長女も、必要な物が見つからないなど対応に苦慮されていました。こうした状況から、生活リズムの安定と清潔保持を目的として、令和7年1月よりデイサービスの利用を開始することとなりました。

内 容

ご本人は要介護2のご主人と二人で暮らしていましたが、ご自身の認知症の進行により家事などが困難となり、令和5年4月より訪問介護をはじめとする在宅サービスの利用を開始されました。その後も認知症の症状は進行し、入浴に対する拒否が強くなったため、当事業所へご相談がありました。ご本人はデイサービスに対する理解が難しく、利用への抵抗感も強かったことから、ケアマネジャー（CM）はご主人の同行を支援計画に組み込み、「安心できる相手と一緒に通うこと」を通所開始の第一歩とする方針を立てました。

これにより、信頼できる存在であるご主人とともに、令和7年1月より週2回の頻度でデイサービスの利用が開始されました。ご主人は、ご本人にとって最も信頼できる存在であり、常にそばで支えることで心理的な安定につながりました。同じ空間で活動に参加することで、ご本人の不安の軽減に大きく寄与しています。現在も、ご本人の回復とともに喜びながら、デイサービスへの通所を積極的に支えています。介護職員は、当初ご本人が環境への適応に苦労し、落ち着かない様子や帰宅願望、入浴拒否などが見られたことに対し、まずは「安心して慣れていただくこと」に注力しました。ご夫婦での活動参加、職員の常時付き添い、声かけや散歩などを通じて安心できる雰囲気を作っていました。看護師は、不安や混乱が見られる際にはご本人のそばに寄り添い、やさしく声をかけることで気持ちの安定を図りました。また、健康状態の確認や体調管理を継続的にを行い、安全な通所生活の基盤を支えています。リハビリ専門職（OT）は、ご本人が運動を嫌いではないという特性に着目し、週2回20分間の個別対応を実施しました。明るい雰囲気の中で無理なく運動に取り組めるよう工夫し、活動意欲が高まるよう支援しました。こうした支援の結果、ご本人は少しずつデイサービスの環境に慣れ、不安な表情も和らいできました。他の利用者や職員との交流も自然に生まれ、1か月後には拒否していた入浴にも徐々に入るようになり、現在では入浴もスムーズに行えるようになっていきます。ご主人も「デイに来てよかった」と喜ばれ

ており、ご本人の前向きな変化を共に実感されています。今後も、ご夫婦の大切な時間を守りながら、輝きのある日々を過ごしていただけるよう、職員一丸となって支援を続けてまいります。

【OUR TEAM】

- ご主人（キーパーソン）：安心感の提供・通所継続の精神的支柱
- ケアマネジャー：ご本人の不安に配慮した支援計画の立案、ご主人の同行支援の調整、多職種連携の推進
- 介護職員：安心できる活動環境の提供・同行支援・入浴サポート・日常の見守り
- 看護師：体調管理・精神的安定への寄り添い・医療的観察
- セラピスト（OT）：週2回・1回20分間の個別運動プログラム実施・活動意欲の引き出し
- 職員全体：交流の場の提供・社会参加促進・安心できる雰囲気づくり